

## 夫の選択

岡崎 靖子

大手術をした関係で薬も多服、魔はしのび寄ってきた。

健康体の腎臓の働きを100パーセントとして、それが10パーセント以下になると、腎臓の働きに代わる治療を行わなければならぬ。夫の場合は血液検査の結果、数値はわずか5パーセントだ。

透析をしないで少しでも改善できればこの上ないと、多くの人に相談したり、数カ所の病院の門を叩いた。しかし、腎臓は年齢と共に弱っていくもの、絶対若返らないことを理解した。

夫は話す。「人生に悔いはない。ここまで生かせてもらったので感謝だ。しかし、毎日、目まいが10数回起こったり、頭が重かったり、胸が苦しかったりするのは耐えられない」

4つ目の病院の医師との出合いで腎臓病に対する考えに明るい光が差してきた。その医師の医学力と人格に心から引かれた。ゆっくり話を聞いて、微に入り細に入り、今後の治療方針を話してくださった。

透析には2通りある。血液透析と腹膜透析だ。我々二人は腹膜透析という言葉初めて聞いた。透析と言えば手首で動脈と静脈を手術、そこから血液を出して浄化する方法しか頭になかった。まだ腹膜透析は一般に知らない人の方が多いのではないだろうか。

腹膜透析は、体の腹膜を利用して透析を行う方法。毎日1日

3回行うので腎臓の働きに近い安定した透析方法ができる。患者自身が実施できるので、自宅療養ができる。

しかし、これを始める前にカテーテルと呼ばれるチューブを腹に埋め込む手術がある。透析液の交換は、自動的に接続を行う機械がある。その機械操作をマスターしなければならない。カテーテル留置手術は医師にまかせるが、後が大変だ。まず部屋を清潔に。バッグ交換、毎回の測定と記録、出口部の観察と消毒、カテーテルケアなど、継続と忍耐の努力が大切だ。

二者択一。長い人生の内、どちらを選択するか。こんなに難しいことはなかった。それによって、残された人生の生活様式が変わってくるからだ。2カ月悩んだ末、夫が決断した。

夫「腹膜透析にする」  
妻「全力で手伝いに徹するわ」

我が家の壁に「頑張るぞ！腹膜透析一生涯」と書き出して貼った。

作者 岡崎靖子

題名 夫の選択

山陽新聞夕刊

2020.02.20 掲載